

## 第 42 回大阪府高等学校芸術文化祭美術工芸部門コンクール展について

今年度も、コロナ禍で多くの大会が開催されなくなる中、昨年度に続き芸文祭が開かれたことが、まずは喜ばしいことだと思います。皆さんにとっても、部活動が計画通り進まない、限られた場所や時間の中での制作活動を通じ、最大の成長のチャンスが持てたのではないのでしょうか。コンクールですので、もちろん入選、落選はありましたが、作品を完成させ出品したことで、さらに多くの成果が得られたと思います。また、審査結果に関わらず、努力を続けて次回も出品してくれることを望んでいます。

入選率については絵画、版画、デザイン等、平面作品は特に出品数が多く、厳しい状況となりました。審査を経て入選された皆さんは、結果に自信を持つだけでなく、展示されなかった人の気持ちや作品への想いも代表しているのだと、責任と自覚を持ち、今後の制作で手本となるようにさらなる高みを目指して欲しいです。

コロナ禍の中、持ち帰ることのできない工芸や彫刻、立体デザインに関しては、例年よりさらに制約がある学校生活の中での制作は、計画通りに制作できず、工夫や努力が必要だったと思います。あきらめず、最後まで作り切ったことが素晴らしいと思います。

展覧会の鑑賞はしましたか？ 芸文大賞の作品を含め、展示された全ての作品を「どれだけの想いと時間をかけて制作したのか？」と制作者の視点からじっくり観て欲しいです。そして自分の不足した部分を発見し、補い、どの作品よりも良い作品を次回作ってくれることを期待します。これは皆さんにとっての始まりであって、多くの作品たちとの出会いの場であることを大切にしてください。

そしてこのコロナ禍の中にも関わらず、出品数が例年より増えたことは、今年度の芸術文化祭が成功していたと言えるのではないのでしょうか。このこと自体が皆さんの力です。来年度も大いに期待しています。

2022 年 1 月 23 日

審査委員長 松村 理身